

かお・人・interview

2018年12月18日

新所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
北九州港湾・空港整備事務所 所長

根木貴史氏

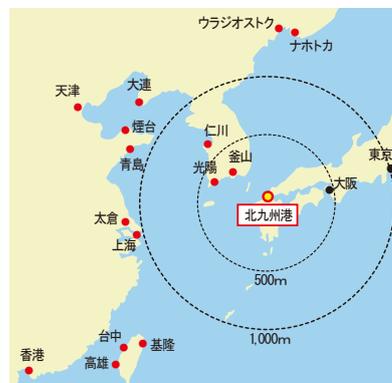
takashi NEGI

北九州港は外貿の門司、内貿の小倉、鉄・石炭の洞海と、三つの港が統合して生まれた。地理的特性を活かした港は、関東・関西や東アジアと結ぶコンテナ航路やフェリーなど物流網も充実している。また、海上にある北九州空港やフェリー基地周辺には高速道路のインターチェンジが整備されるなど貨物輸送が注目を浴びている。新任の根木所長に、新門司沖土砂処分場等今後の主要な事業や課題などについて話を伺う。

Q 所長就任にあたっての抱負

北九州港は周防灘や響灘などの海域や重要な関門航路に面しており、各方面から多様な要請があります。それも国際拠点港湾として、博多港とともに九州・山口地域の産業、経済を担っているからでしょう。それを踏まえ、アジアとの結びつきを、今以上に強化したいと考えています。中国や韓国ほど注目されていませんが、東南アジアの活力は特筆すべきものです。博多や下関と連携して、ビジネスに対して相乗効果を出せないか、と考えています。

アジア交流は今後も大きく飛躍する可能性があります。博多港や下関港は異なる特長をもって物流の流れを作っています。北九州港も地理的優位性や産業基盤を活かして両港と連携するとともに、地域の声を聞いて物流や人流に対応していきたいと思っています。



Q パナマの港づくりについて教えてください。

私が駐在したのは、パナマ海運庁です。同庁には商船の船籍(登録)免許を出す、いわゆるパナマ船籍で有名な商船局もありますが、私は港湾開発局で港の計画づくり(アドバイザー)のお手伝いをしていました。測量をするにも港周りの三角点を整備するところから始めましたが、金属に価値があるため設置したポイントが盗難に遭ったこともありました。

港づくりと言ってもパナマには、運河地帯を除いて大きな港はありません。朽ちた栈橋が砂浜から一本伸びていたり斜路だけの



河川港のようなシンプルな場所ばかりです。そのような環境で、川のどちら側に港を作るべきかなど場所選定から議論もしました。日本のJICAから派遣されていたコンサルタントは最大10名くらい。漂砂や自然現象をしっかり理解した上で計画に落とすため、漂砂、土質や構造などさまざまな専門家がかかわっていました。

日本の港は、すでにかなり出来上がっていますので、港を拡張する事業はあっても、港の場所選びから参加した経験はなく、良い経験になったと思っています

Q 当事務所の紹介(事業内容、組織、特徴)

当事務所は、約130年の歴史がある国際貿易港の北九州港と、北九州空港の整備事業を行っています。北九州港は、東アジア諸国を始めとした海外と九州あるいは、西日本を結ぶ重要な港として発展し、外貨貨物全体で全国5位(2011年)、外貨コンテナ貨物の取扱量が全国で第7位(2011年)の実績をもちます。まさに、九州・山口地方の経済を支える重要な役割を担っています。

また、北九州市西部の響灘地区では、大水深岸壁を備えたひびきコンテナターミナルが供用されています。それにともない交通量の増加に対応するため臨港道路、若戸トンネルが平成24年9月15日に開通しました。

空港事業としては、平成18年3月16日に開港した北九州空港の整備にも携わっています。北九州市東部の周防灘海上に建設された空港は、連絡橋によって結ばれており、24時間空港の利点を活かし早朝・深夜旅客便が就航しています。平成30年6月には、九州唯一の貨物専用定期便が就航。ほかに、同年10月末からは台湾との定期便も就航。空港周辺には本州や九州各地を結ぶ高速道路網やフェリーの基地が整備されるなど、北部九州における陸・海・空のネットワークの中核として発展を目指しています。

Q 平成30年の事業概要

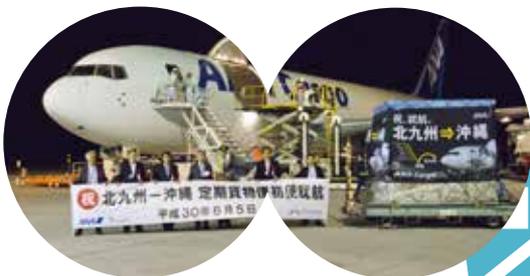
現在、北九州港湾・空港整備事務所が重点的に取り組んでいるのは、新門司沖土砂処分場II期の整備です。II期沖は、関門地区の港湾や航路から発生する合計約3,200万m³の浚渫土砂を受け入れます。航路・泊地の浚渫を受け入れることでドライバー不足や西日本豪雨の影響で需要が高まっている、新門司地区複合一貫ターミナル整備にも一役買っているところです。

既存の土砂処分場である新門司沖土砂処分場(3工区)については、築堤嵩上げ、圧密改良等の延命化措置を実施してきましたが、約10年以内には満杯になる可能性が高いことから、平成30年代半ば以降の土

北九州港湾の特徴は国内外の充実した交通網。

瀬戸内海の海上ネットワークだけでなく
優れた東九州、西九州、本州への
陸上アクセス、北九州空港からつながる
新たなネットワークも期待されています。

▲ひびき CT 荷役状況



▲ANAcargo 初便就航



▲につぼん丸



▲新門司地区

(写真提供：北九州港湾・空港整備事務所)

砂処分場（Ⅱ期）への受け入れのため、一部護岸工事を開始しています。

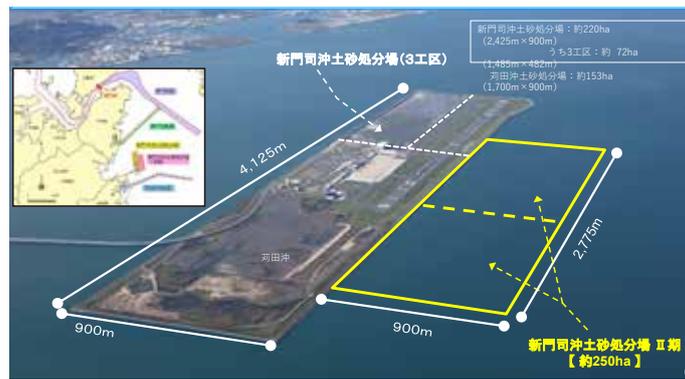
このほか、浚渫土砂の利活用や情報化施工にも積極的に実験を重ねています。土木工事で発生した浚渫土を利用する技術の開発などにも取り組んでいます。さらに実験を繰り返し、港湾工事の埋め立て材にもできるよう検討中です。

また、新門司沖土砂処分場整備の環境監視調査（カブトガニの生態調査など）を行うなど、整備事業が、周辺海域の自然環境に悪影響を与えないようにも気を配っています。

北九州空港では RESA（滑走路端安全区域）への取り組みを今後進める予定です。第七管区海上保安本部航空基地移転の要請に応えた駐機場などの整備も始めています。



▲北九州空港滑走路（1）



▲新門司沖土砂処分場（Ⅱ期）



▲新門司沖土砂処分場（Ⅱ期）平成29年度の工事状況

Q 地域との連携・協働について

当事務所の役割は港づくりのハード整備がメインですので、ソフト面で牽引することは難しいのですが、機会があればさまざまなソフト施策にも協力していこうと考えています。

事務所は「門司港レトロ」が近くにあり、地元・民間・行政が一体となって活動しているレトロ倶楽部がイベントを企画しています。地域活性化に力を入れている組織ですので、港湾事務所も積極的に参加協力させていただいています。

また、個人的に「好きっちゃみなとスロージョギングの会」という市民活動にも参加しています。海辺を楽しく会話しながら、時間をかけて4～5キロゆっくり走ります。港の歴史や施設について私より詳しい方が解説するなど、走りながら港の役割を学べる企画です。私たちも、ときには解説をフォローするように努めています。

また「門司港レトロ倶楽部」のオブザーバーメンバーであり、門司港の清掃を展開している「門司を美しくする会」にも参



▲開門港ポート天国

港づくりのハード整備がメインですので、ソフト面で牽引することは難しいのですが、機会があればさまざまなイベントに協力しています。



画するなど、地域住民が元気になる取り組みも応援しています。



▲平成30年度に行われた「門司みなと祭」事務所1Fパネル展

Q 地域建設業への要望・メッセージ

建設業で働く担い手不足が懸念されています。これに対応するため、働き方改革やIT利用など、職場や仕事の魅力向上に取り組んでいますが、結果はすぐに出ません。だからこそ、働きやすい環境を作るために、週休2日の確保、工期設定や変更など、受注業者と連携し推進していきたいと考えます。



▲現場説明会

また、人材育成も大きな課題です。4月には、受注者に協力して福岡県立八幡工業高校の生徒を見学会にお迎えしました。土木や建設については、完成した施設だけを見ても仕事のイメージがわきません。作業現場

を実際に見てもらい、暮らしを支える港は、どのように造られているのか建設業者や港湾関係者が現場で直接伝えることで、スケール感ややりがいを感じてもらうのが目的です。

私自身、土木を目指したのは高校の図書館で見た一冊の本がきっかけです。そこには、都市計画や環境、国土など木が関わる広い分野が書かれていました。安全や快適性に配慮した環境を考え、実現させる。その規模の大きさに驚いたのを覚えています。

また、港湾は貿易の世界ともつながりがあり、経済的な分野に触れることもあります。北九州港では今後も、地元企業の方々と協力し合いながら、ものづくりの楽しさを伝え、地域の経済発展を支える場づくりを進めていきたいと考えます。

Q 趣味、健康法について

趣味ではありませんがスペイン語を忘れないため、NHKのスペイン語講座は視聴しています。語学は積み重ねですので、常に意識しておくことが大事だと思っています。

健康面で、月に一度港を走るスロージョギングは、港を走ることで周辺景色や歴史を確認できるいい機会になっています。走り始めたきっかけは50才になって大病を患った経験からです。幸い5年経過した今も元気に過ごしています。せっかくほぼ健康な体を取り戻したので、人生100年のつもりで体力維持に努めたいと思います。

プロフィール



出身地：静岡県浜松市
 生年月日：S37年12月29日生（56歳）
 S63年4月 港湾局 建設課 採用
 （港湾技術研究所 出向）
 H6年2月 第四港湾建設局
 下関調査設計事務所 建設専門官
 H9年4月 沖繩開発庁 振興局
 振興第三課 専門官

H11年7月 玉野市 企画部部長
 H13年1月 港湾局 建設課 国際業務室 課長補佐
 H14年6月 パナマ国政府に派遣
 H17年8月 航空局 飛行場部 関西国際空港・中部国際空港監理官付け
 中部国際空港企画官
 H18年10月 （財）沿岸技術研究センター 研究主幹
 H20年7月 沖繩総合事務局 開発建設部 港湾空港指導官
 H22年8月 国土技術政策総合研究所 沿岸海洋研究部
 沿岸防災研究室長
 H24年7月 （一財）運輸政策研究機構 運輸政策研究所 主任研究員
 H27年4月 輸出入・港湾関連情報処理センター（株）
 ソリューション事業推進部次長
 H30年4月 九州地方整備局 北九州港湾・空港整備事務所長